

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502298		
法人名	有限会社 優コーポレーション		
事業所名	グループホーム 厚宮館		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番30-2号		
自己評価作成日	平成23年8月18日	評価結果市町村受理日	平成23年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日頃より入居者様の健康管理に注意を払い、体調に変化が見受けられた際に、速やかに協力医療機関と連絡を取り、速やかに必要な治療を受けて頂き、少しでも長くお元気でお過ごし頂けるようサポートすることを心掛けております。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502298&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年9月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム 厚宮館」は、バス停から近く、遊歩道に面した自然豊かな環境に立地している。2階建ての建物は共用空間が広く、全体を見渡すことができ、家庭的でゆったりした雰囲気である。協力病院は緊急時の対応も可能で、他病院との連携の中で医療が提供されている。管理者と職員は開設時に目指した、家庭的な雰囲気の中で利用者が自立的な楽しい生活を過ごせるように、能力を引き出すケアを大切にして対応されている。昨年目標達成計画もほぼ達成しており、地域との協力関係を維持し、町内会の花植えや清掃、また行事に参加し交流を図っている。夜間は隣接しているグループ会社の他グループホームとの協力体制や地域との協力で災害時に備えて暮らしを安全に見守っている。地域住民との関わりを持ちながら生き生きと暮らせるように、可能な限り外出支援を行い、遊歩道の花を見て散歩を楽しみ、食事を含めた外出行事を多く取り入れている。入浴はいつでも入れる態勢を整えており、入浴チェック表で利用者自身が確認できるように工夫し、職員は利用者の自主的な言動を見守り、側面から丁寧に対応されている。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に運営理念を掲げ、職員間で共有を図るとともに、実践を心がけております。	可能な限り自立した生活支援を基に、地域社会の一員として積極的に地域活動に参加するという内容を含めた理念を要所に掲げ、申し送り時やスタッフ会議で対応を確認している。職員の採用時にも理念を説明している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には入居者・職員共積極的に参加し、地域の方々との交流を図っています。	利用者は職員と一緒に町内会の清掃などに参加し、運動会や敬老会行事にも出かけている。事業所の夏祭りには、小学校や町内会から備品を借りるなどの関わりを持ちながら交流の機会を図り、餅つきには住民の参加が得られている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご相談があればその都度助言などを行っています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御利用者様に対してのサービスの報告は行っておりますが、評価の取組状況などは報告していません。	昨年は運営推進会議を5回実施し、事業所報告の他、外部評価の結果も事前に送付する中で内容を確認している。スプリンクラーの設置や災害についての協力関係を確認し訓練の実施に繋げている。会議に参加可能な家族には開催案内を送り、議事録は全家族に送付している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きなどの事務手続きの連絡が主となっている。	介護認定の更新や制度的なサービスの手続きなど、各担当者と情報を交換し申請を代行している。利用者の個別な事情を担当者に相談し、協力関係の中で本人とも話し合い解決に繋げている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為を理解し、夜間の玄関施錠は防犯や入居者様の安全確保の目的で行っているが、身体拘束をしないケアを実践しています。	身体拘束ゼロ作戦の実践事例集を参考に、拘束の弊害について勉強会で理解を深めている。管理者は声かけの口調や対応が上からの目線になっていないかを注意し、職員もスタッフ会議で禁止語などを取り上げて意見を交換し対応を確認している。玄関にチャイムを取り付けて自由な出入りを安全に見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では身体的また、言葉による虐待は行っていません。身体面では傷・アザ等の観察を行い、発見時には図入りで記録に残し事故か虐待かを見極め虐待の防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度について、学ぶ機会を持っておりません。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>その都度説明し理解納得を得られるように努めています。またご家族より疑問、不安などの相談があった場合には理解して頂ける様に説明しております。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や運営推進会議でご家族の意見を収集しています。玄関横に意見箱を設置し、投入用紙は選択式の様式にする等工夫しています。重要事項説明書に外部の苦情受付期間の連絡先を記載しています。</p>	<p>家族の来訪時には介護記録なども参照し、利用者の状況を報告する中で意見を求めているが、要望などは特になし。意見箱の横にアンケート用紙を用意しており、さらに意見を引き出せるような工夫で、家族の些細な意見も運営やサービスに活かしたいと考えている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者は、日々の申し送りや月例のスタッフ会議等で、随時職員の意見や提案を聞く機会を設けております。</p>	<p>毎月のスタッフ会議で介護計画や対応についての意見を取り上げ、業務の改善や変更など活発な意見交換の場となっている。必要な時は管理者との個人面談もある。可能な限り個人の希望を取り入れて勤務表を作成し、働きやすいように配慮している。</p>	
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>普段、接する機会が少ない。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修、講習を段階に応じて行っており、案内等は職員が閲覧でき参加希望者には参加できる様に業務面での支援を行っています。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の同業者との交流や勉強会の機会を設け活動しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者様の訴えを傾聴し受け止める努力をしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の相談には機会を作ってお話を伺い受け止める努力をしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・職員間でカンファレンスを設け、必要としている支援の見極めに努めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様の気持ちや立場を良く理解し、御利用者様の気持ちになり支え合う関係作りに努力しています。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	信頼関係を構築出来る様努めています。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御利用者様の馴染みの人や場所との繋がりを大切にし、希望があれば家族や友人などへの連絡や郵便物の取次ぎなどの支援を可能な限り行っています。	馴染みの人の来訪時には交通の道順などを詳しく教え、来やすいように配慮している。利用者の気懸りなことに対応し、家族の協力でお墓参りや外泊などの機会を継続している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をきちんと把握し、問題が起きない様配慮し、共通して楽しめる行事や話題づくりを支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了に際しても引き続き御家族様が、ホームに立ち寄れる関係を続けております。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の今までで歩んでこられた人生を踏まえ、入居者様との日常の会話を通じて、希望や意向に沿う様に努力しております。	生活歴や趣味などをセンター方式のアセスメントシートに収集し、情報を蓄積して介護計画に反映させている。日常の関わりの中で利用者の思いを探り、申し送りやスタッフ会議などで情報を共有し対応している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族様から頂いた情報を職員で共有しております。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の心身状態を把握し、個々の支援に役立てております。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを設け、入居者様の課題について介護支援専門員や職員で意見を出し合い、介護計画を作成しています。	初期の介護計画は1ヶ月を目安に見直し、その後、状態が安定している場合は3ヶ月ごとの見直しとしている。担当職員が利用者の希望や家族の意向を聞き、検討内容を記録し、それを基にカンファレンスで評価し、次の計画に繋げている。介護計画表は個人ファイルに綴じられているが、介護記録に反映されていない面も見られる。	介護計画の目標を意識しながら、日々の実践の様子を記録にされることを期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護の実践は個別記録に記録し、情報を共有してカンファレンスにて介護計画の見直しをしております。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への通院や、訪問マッサージ、訪問理美容等、個々の要望に応じた支援を行っています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察消防とは協力体制を取っており、行事などの際必要に応じボランティアの方々のご協力を頂いており、民生委員や地域の方には運営推進会議を通じてご協力を頂いております。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外の通院等個々の要望について、ご家族様の協力を得ながら、可能な限りご希望に応じた支援に努めております。	協力病院から2週に1回の往診があり、他科受診が必要な時は主治医の紹介状で専門医と連携して治療を受けている。希望の病院を継続して受診する場合は家族に情報を渡し、都合が悪い時は職員が同行し、結果を個人シートに記録し情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師による週一回の訪問の他、24時間いつでも相談・支援を受けられる体制が整っております。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来るだけ早期に退院出来る様、医師より経過報告を受けながら、いつでも退院出来るよう準備を整えております。また入院中は、管理者が時間の許す限り面会しております。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末のあり方について御家族には説明を行っており、必要に応じて主治医との話し合いの場を設けております。	重度化に伴う医療体制の指針の中に、終末期への対応、ターミナルケアについても明記し、利用契約時に同意を得ている。食事が摂れないなど医療処置が継続する場合は、主治医、家族と方針を話し合い入院方向となっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者・職員は応急手当の訓練や初期対応に関して定期的に確認を行い対応できるようにしています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・地域の消防団等の協力を得て夜間想定での避難訓練を実施し、運営推進会議での報告を通じて助言を頂いてくようにしております。	夜間を想定した火災避難訓練には消防署の協力の下で、地域の消防団も訓練に参加し、誘導後の利用者を見守る役割で実施している。特に、夜間帯は隣接している法人の他ホームと協力体制を取り、スプリンクラーを設置し防災に備えている。火災以外の災害についても話し合っているところである。	火災以外の地震や水害の災害についても運営推進会議の議題にして、地域との協力体制作りを期待し、災害の際の備蓄類の管理にも期待したい。また、職員が救急救命訓練の受講を計画的に進められるよう期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや接し方は接遇の基本をわきまえながら、状況に応じて、親しみのある言葉がけで対応させて頂いております。個人情報を含めた記録などの扱いは管理を徹底しています。	呼び名は「さん」付けを基本とし、利用者の希望に応じた呼び方にしている。個人ファイルの記入はスタッフスペースで行い、記録書類も安全に管理している。面会簿は単票になっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思いや希望を訴えられた時は、傾聴し、御希望に沿える様に支援し、自己決定出来ない方には、その思いを汲み取る努力をしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	団体生活の中で一人一人がどの様に過ごしたいか日々の観察から御希望に沿える様支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る方はそれを尊重し、そうでない方にはその人らしいおしゃれが出来るよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に入居者様個々にあった作業を行って頂くなど、食に対し興味を持って頂ける様、可能な範囲で参加して頂いております。	職員が利用者と一緒に会話しながら楽しく食事を摂っている。献立は食材業者によるものだが、利用者の希望も反映している。能力に応じて調理や下膳、食器洗いなどに参加している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材及び栄養管理されたものを提供しております。食事・水分摂取量が一目で分かる表を活用し、摂取量を把握しております。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず入居者様の自立度に合わせて、見守りまたは全介助にて口腔ケアを行い、口腔内の状態の把握に努め、必要な時には歯科医による訪問治療も依頼しております。また、職員は口腔内を清潔に保つ重要性を理解しております。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御利用者様の排泄パターンを把握に努め、表情・行動等のサインを見逃さない留意して観察を行い、適宜声掛け、誘導を行っております。	排泄・水分摂取を記録し、パターンを把握して、プライバシーに配慮しながらさり気なく誘導している。できるだけトイレで排泄できるようにし、衛生用品も状況を見ながら使用が少なくなるよう心掛けている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活での運動、水分摂取量のアップや腹部のマッサージ等により自然排便を心掛けているが、スムーズにいかない場合は医師に相談の上指示を仰ぎ対処しています。また排便チェック表できちんと管理を行っています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御利用者様の体調や気分を観察・把握し、リラックスして入浴して頂ける様努めています。	毎日入浴可能で、午後の時間帯が基本だが、希望があれば午前中に入浴も可能である。週2回以上の入浴を行い、利用者向けの入浴表を壁に貼り出し入浴を促している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状況を考慮し、適時休息・午睡を取って頂いております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の出し入れ・手渡し、服用の際に職員が三度のチェックを行い、誤薬が起きない様徹底しております。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を考慮しながら、得手・不得手を把握し、料理・手芸・園芸等を職員と一緒にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人一人の希望に沿う事はできませんが、出来る限り戸外へ出掛けられるよう支援をしております。</p>	<p>多くの利用者が能力に応じてホーム前の遊歩道の散歩や近くのスーパーへの買い物に外出している。車椅子の方も一緒に周辺を散策している。花見や遠足、紅葉狩り、外食、雪祭り見学などの年間行事も豊富である。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ほとんどの御利用者様はお金の管理はできませんが、御本人がお金を持つ事の大切さを考慮し、御家族様と職員が協力し、お金を所持し使うことを支援しています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>御利用者様の希望があれば、手紙や電話は出来るようにしております。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>絵画や植物、御利用者様が製作した作品等を置き、居心地良く過ごして頂けるような工夫を心がけております。</p>	<p>共用空間が広く、全体を見渡すことができ、家庭的でゆったりした雰囲気である。トイレや浴室も広くて使いやすく、階段もなだらかである。季節の装飾や利用者の作品が飾られ、カレンダーや時計なども家庭的で親しみやすい。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファの配置を工夫し、ご利用者様が思い思いに過ごせる場所を確保しております。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にご利用者様がご自宅で使い慣れ親しんだ家具や食器を持ってきて頂けるようご家族へ説明し、ご協力頂くようにしております。</p>	<p>居室には仏壇やテレビ、馴染みの家具、生活用品などが持ち込まれ、居心地よく過ごせる場所となっている。壁にもタレントや家族の写真、カレンダーなど自由に飾り付けをして楽しんでいる。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリーとし、手すりの設置や、階段を利用することで、身体機能を発揮できる造りにしています。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502298		
法人名	有限会社 優コーポレーション		
事業所名	グループホーム 厚宮館		
所在地	札幌市厚別区厚別西3条1丁目1番30-2号		
自己評価作成日	平成23年8月18日	評価結果市町村受理日	平成23年9月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階ユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170502298&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年9月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内に運営理念を揚げ、職員間での共有をはかり、実践を心掛けております。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは普段より挨拶を欠かさず行き、町内会の行事には入居者・職員共に積極的に参加し、馴染みの関係を作るよう努めています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御相談があれば、その都度助言などを行っております。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御利用者様に対してのサービスの実際の報告は行っておりますが、評価の取り組み状況等は報告していません。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の更新手続きや、生活保護受給者の近況報告を通じて区役所窓口の担当者と連絡を取っております。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為を理解し、夜間の玄関施錠については防犯や入居者様の安全確保の目的で行っているが、身体拘束しないケアを実践しています。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法等に関しては全ての職員が学ぶ機会を持っておりませんが、身体的また、言葉による虐待は行っておりません。身体面では傷・アザ等の観察を行い、発見時には図入りで記録に残し事故か虐待かを見極め防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会を持っておりません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度説明し、理解・納得を得るように努めています。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や運営推進会議等でご家族様の意見収集に努めております。また、玄関にご意見箱を設置し、アンケート用紙をご用意しております。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の申し送りや月例のスタッフ会議等において、随時職員の意見や提案を聞いております。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段接する機会が少ない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・講習を段階に応じて行っており、案内等は職員が閲覧できるようにしております。参加希望者にたいしても、参加できるよう業務面での支援を行っております。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流や勉強会の機会を持つべく、活動しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者様の訴えを傾聴し受け止める努力をしております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様の相談には機会を作って伺い、受け止める努力をしております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	3ヶ月ごとにケアプランを見直し対応しております。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様の気持ちや立場を良く理解し、支え合う関係づくりに努力しています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の都度、ご家族様に対し、入居者様の近況をお伝えするなどコミュニケーションを図り、信頼関係を構築できるよう努めております。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の馴染みの人とのつながりを大切にし、ご希望に応じて連絡等の支援を行っています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者様同士の関係を踏まえさり気なく職員が交流の手助けをしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了に際しても引き続き、御家族様がホームに立ち寄れる関係を続けております。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様の今まで歩んで来られた人生を踏まえ、入居者様からの日常の会話から希望や意向を汲み取るよう努めております。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族様から頂いた情報を職員で共有しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人一人の心身状態を把握し、支援に役立てております。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを設けて、計画作成担当者と介護職員が意見交換を行うと共に、御利用者様の立場に立ち、御本人・御家族さまの要望、意見を取り入れ介護計画を立案しています。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護の実践は個別記録に記入し情報を共有してカンファレンスにて介護計画の見直しをしております。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んではいるがあまり実施されていない。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、支援してはいるがあまり活用されていない。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の協力を得ながら、本人及び家族等の希望を大切に、可能な限り適切な医療を受けられるよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師による週一回の訪問の他、24時間いつでも相談、支援を受けられる体制が整っています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御利用者様が入院した際、病院関係者との情報交換や相談に努め関係づくりを行っております。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末のあり方について本人・御家族等と話し合いを行い方針を共有を図ると共に、必要に応じて医師との話し合いの場を設けております。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っております。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物の構造を理解した上で火災・災害発生時の避難方法を独自のマニュアルを作成し、職員間で熟知するよう努力しております。また、夜間想定消防訓練を年二回実施しております。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉や対応を心掛けております。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様の状況を把握し、自分らしく生活できるよう努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者様の生活のペースを把握し、個々の満足が得られるように努めております。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援できていない場面もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に無理の無い範囲で、職員と一緒に個々にあった作業を行うように努めています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、一日を通して摂取していただけるようにしえんしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方にはしていただき、自分で出来ない方にはしえんしています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御本人の排泄パターンの把握に努め表情・行動等の変化を見逃さないようにし、適宜声掛け、誘導を行っております。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常より、自然排便を心掛けているが、排便がスムーズに行かない場合は医師に相談し対処しています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の体調や気分を観察・把握に努め、リラックスして入浴していただけるよう配慮しております。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や状況を考慮し、適時休息をとっていただいています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は常に職員が閲覧できる場所に、整理整頓されています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を考慮しながら、得手・不得手を把握し、料理、園芸などを職員と一緒にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者様一人ひとりの希望に沿うことはできませんが、できる限り戸外に出かけられるよう支援をしております。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ほとんどの御利用者様はお金の管理はできませんが、御本人がお金を持つ事の大切さを考慮し、御家族様と職員が協力し、お金を所持、使うことを支援しています。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>御利用者様のご希望があれば、手紙や電話はできるようにしております。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>絵画や植物、御利用者様が製作した作品などを置き、居心地良く過ごして頂けるような環境作りの工夫をしています。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファの配置を工夫し、御利用者が思い思いに過ごせる場所を確保しています。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に御利用者様が使い慣れ親しんだ家具や食器を持ってきていただけるよう、ご家族様に説明しています。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はバリアフリーとし手すりの設置や階段を利用することで身体機能を発揮できる造りにしています。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 厚宮館

作成日：平成 23年 9月 22日

市町村受理日：平成 23年 9月 22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	介護計画の実施状況が介護記録に反映されていない面がみられる。	介護計画の実践の様子を介護記録に記載する。	介護記録を記録する際、介護計画を確認しながら行えるよう介護計画書を職員が確認しやすい部位に綴るなどの工夫を行い、介護計画の実施状況を反映した記載を行うよう努める。	6ヶ月
2	35	地震や水害など、火災以外の災害についての地域との協力体制作りや災害に備えた備蓄の管理について力を入れて取り組むと共に、職員の救急救命訓練の受講を計画的に進めることが必要である。	地震や水害などの災害時の地域との連携の強化を図る。職員の救急救命訓練の受講を計画的に進める。	地震や水害などの火災以外の災害について運営推進会議の議題にして、地域住民からご意見を頂くとともに協力体制の確認、強化を図る。また、職員の救急救命訓練受講について、地域の消防団の協力を得ながら職員全員が受講できる機会を設ける。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。